

文法で意味を読む

第三冊 文と文、話し手の判断を読む

出来事をどう結び、誰の言葉として、どの確かさで述べるか

第一回	第二回	第三回	第四回
理由・逆接・譲歩	条件・仮定・前提	引用・考え・伝聞	事実・推測・評価

第三冊で育てる力

第一・第二冊で身につけた一文の読み方を、文と文、発言と考え、話し手の判断へ広げます。出来事、条件、引用、推測・評価を区別し、誰がどの根拠でどこまで述べたかが伝わる文へ整えます。

名前

使い始めた日

和会塾

この教材について

第一冊では文の骨組みを、第二冊では範囲・時間・人物の向きを読みました。第三冊では、節どうしの関係から始め、引用された言葉の持ち主、観察事実と話し手の判断までを読みます。

段階	まず見るもの	次に確かめるもの	整えること
文と文	節・条件を分ける	実際の出来事と、つなぎ方を区別する	関係と時間が一つに伝わる文へ直す
言葉と判断	発言者・引用範囲を見る	観察事実と推測・評価を区別する	根拠に合う言葉と文末を選ぶ

自習するときの三つの約束

一	二	三
文の形が示すことと、本文から補うことを分ける。	引用や強い文末を、そのまま事実の保証としない。	模範解答の語句でなく、必要な関係で自己採点する。

文章の中で読むとき

映画会、科学館、祭りの取材、資料館の調査という異なる記録を読みます。形だけで一つに決まらないときは、発言者、時間、行動、資料へ戻って確かめます。

第三冊の見取り図

前半では節どうしの関係と条件を、後半では言葉の持ち主と話し手の判断を読みます。四回の学びは、古い水路の共同調査記録を読む全体総合問題で一つにつながります。

回	中心となる問い	見るところ	できるようになること
第一回	二つの出来事をどう結ぶ？	から／ので／のに／ても	理由・逆接・譲歩を読み分ける。
第二回	条件は何を前に出す？	と／ば／たら／なら	仕組み・条件・順序・前提を読む。
第三回	どこまでが誰の言葉？	引用／伝聞／考え	発言者・情報源・引用範囲を分ける。
第四回	事実か、どの判断か？	断定／推量／評価	文末と根拠から話し手の立場を読む。

全体総合問題

町の古い水路を調べる共同記録を用います。人物の役割、否定の範囲、条件、引用、観察事実と推測・提案を連続して読み、最後に曖昧な報告を三～四文へ直します。

第三冊を終えたときの目標

一	二	三
節・条件・引用の範囲を分け、出来事の間係を説明できる。	誰の発言・考えかを確かめ、事実認定と区別できる。	根拠の量と目的に合わせ、曖昧でない文へ書き直せる。

目次

区分	内容	頁
前付	この教材について	2
前付	第三冊の見取り図	3
第一回	「から」「ので」「のに」「ても」で、どうつながる？——理由・逆接・譲歩	5
解答・解説	第一回	17
第二回	「と」「ば」「たら」「なら」で、条件はどう変わる？——条件と仮定	21
解答・解説	第二回	33
第三回	どこまでが、だれの言葉？——引用・考え・伝聞	37
解答・解説	第三回	48
第四回	事実と判断を分けて読む——文末表現と話し手の確かさ	53
解答・解説	第四回	64
全体総合問題	古い水路の記録を、根拠から読み直す	69
解答・解説	第三冊 全体総合問題	79
奥付	書誌・利用について	84

第三冊について

本書は第三冊の四回と全体総合問題を収録しています。第一冊から続く全十二回の学びを、文と文、言葉の持ち主、話し手の判断へまとめます。

「から」「ので」「のに」「ても」で、どうつながる？

――理由・逆接・譲歩

第三冊 第一回

1	2	3	4	5
二つの節を比べる	関係を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	関係が伝わる文へ

この回で大切にすること

二つの節を、理由として結ぶのか、予想とのずれとして結ぶのか、その条件があっても後ろの内容が成り立つと述べるのかを読みます。出来事そのものと、書き手が置いた関係を分けましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	標準→やや発展 文脈と書き手の判断も読む

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

前の節と後ろの節が、どのような関係で結ばれているかを比べます。まずは用語を使わず、出来事のつながりを考えましょう。

A 雨が降ったから、映画会を中止した。

B 雨が降ったので、映画会を中止した。

C 雨が降ったのに、映画会を続けた。

D 雨が降っても、映画会を続ける。

問一 A～D の前の節に共通する内容を、短く書きなさい。

問二 雨を、中止した理由として置く二文を選びなさい。

問三 この C と D では、前の「雨」を事実として置くか、条件として置くかに、どのような違いがありますか。

二 四つの文をほどいてみよう

前の節から、後ろの節へどのような橋を架けているかを整理します。

文	前の節	後ろの節	二つの節の関係
A・B	雨が降った	中止した	雨を中止の理由として置く
C	雨が降った	続けた	予想される中止と実際の継続がずれる
D	雨が降る場合	続ける	その場合でも継続する方針を置く

問一 A・B では、前の節が後ろの節に対してどのような働きをしていますか。

問二 C から読み取れる、話し手の予想と実際の出来事を、それぞれ書きなさい。

問三 D だけから、その日に雨が実際に降ったと決められますか。理由も短く書きなさい。

出来事と、つなぎ方を分ける

同じ「雨」と「映画会」でも、書き手が理由として置くか、予想とのずれを見せるか、条件があっても続くと述べるかで、文の働きが変わります。

三 文法で整理しよう

述語を中心に、主語などを伴うまとまりを「節」といいます。日本語では、主語が省略されることもあります。接続助詞など、節と節をつなぐ形によって、出来事どうしの関係が見えるようになります。

形	この回での働き	見るところ
から・ので	原因・理由	前の節を、後ろの判断・出来事の理由として置く
のに	逆接	予想される内容と、実際の内容とのずれを示す
ても	譲歩	その条件があっても、後ろの内容が成り立つと示す

「ても」の形

この回の「ても」は、接続助詞「て」に「も」が続く形です。用語を分けて覚えるより、前の条件があっても後ろの内容が変わらないことを捉えましょう。

問一 はじめに比べた C「雨が降ったのに、映画会を続けた」で、予想される内容と実際の内容を書きなさい。

「から」と「ので」

どちらも理由を表せます。話し手の気持ちの出し方や文全体の調子に違いが生まれることはありますが、「丁寧かどうか」だけで全てを分けることはできません。

「のに」の幅

「のに」は、いつも不満や驚きを表すとは限りません。「金属は熱を伝えやすいのに、木は伝えにくい」のように、二つの事実を対比することもあります。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の文で、前の節はどのような働きをしていますか。最も適切なものを選びなさい。

雲が厚くなったので、照明を早めにつけた。

ア	照明をつけても、雲の厚さが変わらないと述べる。
イ	雲が厚くなったことを、点灯を早めた理由とする。
ウ	雲が厚くなった予想に反し、照明を消したと述べる。
エ	雲が厚くなるかどうかを、これから確かめると述べる。

問二 次の文から読み取れる内容として最も適切なものを選びなさい。

雲が厚くなったのに、星が見えた。

ア	雲が厚くなったことが、星の見えた理由である。
イ	雲が厚くなれば、必ず星が見えると述べている。
ウ	星は見えにくいという予想に反し、実際には見えた。
エ	雲が厚くなっても観察するという方針を述べている。

四 意味の違いを確かめよう（続き）

書き換えの手掛かり

二つの出来事を並べるだけでなく、前の出来事を理由にするのか、予想とのずれを見せるのかを選びます。

問三 場面メモを読み、「ので」を使って一文にしてください。主語や語順は補ってかまいません。

先に起きたこと	そのためにしたこと
上映前に周囲が暗くなった	係員が足元灯をつけた

問四 「雨が降ったのに、映画会を続けた」と「雨が降っても、映画会を続ける」の違いを、三十字以上五十字以内で説明してください。

五 文章の中で読もう

次の運営記録を読み、次のページの問いに答えなさい。天候、主催者の判断、実際の結果を分けて読みます。

一 町の文化係は、八月最後の土曜日に水森公園で屋外映画会を開く予定だった。芝生広場に大きな画面を置き、午後六時半から上映する。雨天用には、百人ほど入れる屋根付き広場も借りてあった。案内には、小雨なら屋根付き広場へ移し、強い風や雷のおそれがある場合は中止すると記していた。

二 当日の午後三時、細い雨が降り始めた。气象台の予報では、雨は夕方まで続くものの、風は弱く、雷注意報も出ていなかった。雨が降り始めたので、主催者は屋根付き広場へ会場を移すことにした。風が弱く、雷注意報も出ていなかったため、上映は中止しなかった。係員は画面と椅子を運び、午後四時に変更作業を終えた。

三 文化係の担当者は、最初にウェブサイトへ「雨が降っても上映します」とだけ載せた。すると、町の人から「雷が鳴っても続けるのですか」と電話があった。担当者は案内を見直し、「小雨で、風が弱く、雷注意報が出ていない場合は、屋根付き広場で上映します」と直した。中止のときだけでなく、会場を移すときにも登録者へ連絡を送った。

四 午後五時四十分には雨がやんだ。それでも、画面や音響機器はすでに屋根の下へ組み直されていたため、雨がやんだのに、元の芝生広場には戻さなかった。係員は濡れた椅子を拭き、映画会は予定どおり午後六時半に始まった。五十二人が集まり、終了まで再び雨は降らなかった。

読むときの手掛かり

接続の形だけでなく、前後にある予報、案内、機材の状態、実際の天候を照らし合わせましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第二段落で、主催者が会場を移した直接の理由を、本文に即して答えなさい。

問二 第三段落の最初の案内「雨が降っても上映します」が述べている内容として、最も適切なものを選びなさい。

ア	雨の場合にも上映する方針だが、強風や雷の場合までは示していない。
イ	小雨なら屋根付き広場へ移し、強風や雷なら中止すると全て示している。
ウ	当日はすでに雨が降り、実際に上映を終えた結果まで報告している。
エ	雨が上映する理由であり、雨が降らなければ中止すると述べている。

問三 担当者が案内を書き直した理由を、三十字以上五十字以内に説明しなさい。

問四 第四段落の「雨がやんだのに」が示す予想として、最も適切なものを選びなさい。

ア	雨がやめば、映画会そのものを中止するだろう。
イ	雨がやめば、もう一度強い雨が降り始めるだろう。
ウ	雨がやめば、来場者は一人も集まらないだろう。
エ	雨がやめば、元の芝生広場へ戻すかもしれない。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

同じ二つの出来事でも、書き手がどの関係を前に出すかによって、選ぶ形が変わります。

場面	前の出来事・条件	後ろの出来事	前に出す関係
A	風が強くなった	上映を中止した	中止の理由
B	風が強くなった	上映を続けた	予想とのずれ

問一 A 場面 A を、「ので」を使って一文にしてください。

問一 B 場面 B を、「のに」を使って一文にしてください。

六 場面を整理して、書き換えてみよう（続き）

方針と実際を分ける

「ても」は、条件を置いた方針にも使えます。その条件が実際に起きたかは、別の文で確かめます。

場面	条件・事実	判断・結果
C	小雨が降る場合	屋根の下で上映する方針
D	実際に小雨が降った／風は弱かった	上映を続けた

問二 A 場面 C を、「ても」を使って一文にしてください。

問二 B 場面 D を、雨が上映の理由だと誤解されないよう、一文または二文で書きなさい。

七 自分のことばで説明しよう

問一 「から」と「ので」を、丁寧さだけで使い分けられない理由を、四十～六十字で説明しなさい。

問二 はじめに比べた C・D で、「のに」と「ても」が前の内容をどのように置いているかに触れ、四十～六十字で説明しなさい。

説明するときの順序

一 前後の節を分ける 二 書き手が置いた関係を述べる 三 文だけでは決まらないことを確かめる。

八 この回のまとめ

一	二	三
「から・ので」は、前の節を後ろの節の理由として置く。	「のに」は、予想とのずれや、二つの事実の対比を示すことがある。	「ても」は、その条件があっても後ろの内容が成り立つと示す。
学習を終えて		
二つの節を分け、つなぎ方を説明できた。		
理由と予想とのずれを読み分けられた。		
方針と実際に起きた出来事を区別できた。		

次の回へ

次は、「と・ば・たら・なら」を比べます。出来事どうしの関係を見る力を、仕組み、成立条件、行動の順序、利用の前提へ広げます。

解答・解説

答え合わせの仕方

接続の形の名前だけで終わらず、前後の節をどの関係で結んだかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係と出来事の順序が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え 雨が降ること。

見るところ 四文の前の節が表す共通内容をまとめます。活用の形が異なっても、いずれも雨が降ることを置いています。

問二

答え A・B

見るところ 「から」「ので」は、ここでは雨を中止の理由として置きます。

問三

答え この C は雨が降った事実を置くが、この D は雨を条件として置き、実際に降ったかは述べていない。

見るところ この C は起きた二つの出来事、この D は条件を置いた方針です。

二 四つの文をほどいてみよう

問一

答え 雨が降ったことを、映画会を中止した理由として置いている。

見るところ 前の節が、後ろの判断を支える関係です。

問二

答え 予想は映画会を中止すること、実際は映画会を続けたこと。

見るところ 雨なら中止するという予想と、後ろの節の内容を対比します。

問三

答え 決められない。D は雨の場合でも行うという方針を述べ、当日の天候は述べていないから。

見るところ 条件を置くことと、その条件が実現したことを分けます。

三 文法で整理しよう

問一

答え 予想される内容は映画会の中止、実際の内容は映画会の継続。

見るところ 「のに」の前後にある二つの節を取り出します。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え イ

見るところ 「ので」の前は、点灯を早めた理由です。アは譲歩、ウは逆接、エは未確定の内容を加えています。

問二

答え ウ

見るところ 雲が厚いと星は見えにくいという予想と、実際に見えたことがずれています。

問三

答え 上映前に周囲が暗くなったので、係員は足元灯をつけた。

見るところ 暗くなったことを、点灯した理由として前へ置きます。

別解例 周囲が暗くなったので、係員が上映前に足元灯をつけた。

★自己採点の観点 ①暗くなった、②足元灯をつけた、③理由の関係、を確かめる。

問四

答え 前者は雨が降った事実と予想外の継続を結び、後者は雨の場合にも続ける方針を示す。（三十九字）

見るところ 実際の出来事と、条件を置いた方針を対比します。

別解例 前者は実際の雨と予想に反する継続を示し、後者は雨を条件にしても継続する方針を述べる。（四十二字）

★自己採点の観点 ①この「のに」は雨を事実として置く、②この「ても」は雨を条件として置く、③後件は継続、を含める。

五 文章の中で読もう

問一

答え 雨が降り始めたこと。

見るところ 「ので」の前に置かれた出来事を確かめます。風と雷の情報は、上映を中止しなかった判断に関わります。

問二

答え ア

見るところ 最初の案内は、雨の場合にも上映する方針だけを述べ、強風・雷の場合の扱いまでは示していません。

問三

答え 雨なら常に上映するようにも読め、強風や雷の場合の中止条件が伝わらなかったから。（三十九字）

見るところ 電話の問いと、書き直した案内に加わった条件を比べます。

別解例 どの程度の雨や風まで上映するのかが曖昧で、雷の場合にも続けると誤解され得たから。（四十字）

★自己採点の観点 ①元の案内が広すぎる、②強風・雷の扱いが不明、の二点を含める。

問四

答え エ

見るところ 雨がやめば芝生へ戻せそうですが、機材を組み直したため戻しませんでした。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 風が強くなったので、上映を中止した。

見るところ 前の事実を、中止の理由として結びます。

別解例 上映中に風が強くなったので、主催者は上映を中止した。

★自己採点の観点 風の強まりと中止が、理由の関係で伝わるか。

問一 B

答え 風が強くなったのに、上映を続けた。

見るところ 中止が予想される状況と、実際の継続を対比します。

別解例 風が強くなったのに、主催者は上映を続けた。

★自己採点の観点 予想とのずれが一つに伝わるか。

問二 A

答え 小雨が降っても、屋根の下で上映する。

見るところ 小雨の場合にも、上映方針が変わらないと述べます。

別解例 小雨になっても、映画会は屋根付き広場で行う。

★自己採点の観点 小雨を条件として置き、上映方針を続けているか。

問二 B

答え 小雨が降ったのに、風が弱かったため、上映を続けた。

見るところ 雨を上映の理由にせず、雨の中でも続けたことと、判断を支えた風の弱さを分けます。

別解例 小雨は降ったが、風は弱かった。そのため、上映を続けた。

｜**ほかの答え方・考え方** 一文にまとめる場合も、「のに」と「ため」を使い分けると、予想とのずれと理由を同時に示せます。

★**自己採点の観点** ①小雨の事実、②風が弱いこと、③上映継続、④雨を理由にしない、を確かめる。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え どちらも理由を表せ、文全体の調子や話し手の示し方にも関わるため、丁寧さだけでは分けられない。（四十六字）

見るところ 共通する働きと、使い分けに関わる別の要素を示します。

別解例 「から」も「ので」も理由を結べるうえ、選び方は文の調子や場面にもよるので、丁寧さだけでは決まらない。（五十字）

★**自己採点の観点** ①両方とも理由、②文の調子・場面にもよる、の二点を含める。

問二

答え この C では雨が降った事実を予想外の継続へ結び、この D では雨を条件として継続する方針を示す。（四十五字）

見るところ はじめの C で事実として置く前件と、D で条件として置く前件を対比します。

別解例 はじめの C は実際の雨を予想外の継続へ結び、D は雨を条件にしても続ける方針を述べている。（四十三字）

★**自己採点の観点** ①C は雨を事実として置く、②D は雨を条件として置く、③後件は継続、を含める。

「と」「ば」「たら」「なら」で、条件はどう変わる？

――条件と仮定

第三冊 第二回

1	2	3	4	5
二つの節を比べる	関係を整理する	文法で確かめる	文章で読み分ける	関係が伝わる文へ

この回で大切にすること

一般に起きる仕組み、結果が成り立つ条件、一度の行動の順序、相手の予定を受けた前提を読み分けます。四つの形を一語ずつ置き換えるのではなく、後ろの節と時間の流れを確かめましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	標準→やや発展 文脈と書き手の判断も読む

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

四つの文は、前の内容を条件や前提として後ろへつなぎます。ただし、仕組み、成立条件、行動の順序、予定のどれを前に出すかが異なります。

A ボタンを押すと扉が開く。

B ボタンを押せば扉が開く。

C ボタンを押したら知らせてください。

D 操作するなら説明を読んでください。

問一 A と B で共通して述べられている、ボタンと扉の関係を答えなさい。

問二 ボタンを押した後に知らせるよう求める文を、一つ選びなさい。

問三 D では、「説明を読む」と「操作する」のどちらが先に行われますか。

二 四つの文をほどいてみよう

前の節が置く条件と、後ろの節が述べる内容を、時間の流れと合わせて整理します。

文	前の内容	後ろの内容	この文で前に出ること
A	ボタンを押す	扉が開く	装置に繰り返し起きる仕組み
B	ボタンを押す	扉が開く	押すことを、扉が開く条件として置く
C	ボタンを押し終える	知らせる	一度の行動の順序
D	操作する予定	説明を読む	予定を前提にした先の指示

問一 A は、特定の人がすでにボタンを押した事実を述べていますか。理由も短く書きなさい。

問二 C の二つの行動を、先に行うものから順に書きなさい。

問三 D で、説明を読むことが操作より先になるのは、どの内容を前提にしているからですか。

三 文法で整理しよう

前の節に置かれた事柄が成り立つ場合に、後ろの節がどうなるかを示す関係を「条件」といいます。同じ出来事でも、条件の捉え方によって文の焦点が変わります。

形	この回で前に出す読み	はじめに比べた文
と	ある事柄に伴って繰り返し起きる仕組み	押すと扉が開く
ば	前の内容を、後ろの結果が成り立つ条件として置く	押せば扉が開く
たら	前の出来事が実現・完了した後の時点	押したら知らせる
なら	相手の予定や話題として置かれた前提	操作するなら説明を読む

問一 操作する予定を前提にし、操作より前の指示を出せる形を、表から選びなさい。

一つの形に一つの意味だけではない

「と・ば・たら・なら」には、この回で扱うもの以外の使い方もあります。例えば、「春になると花が咲く」「春になれば花が咲く」のように、近い内容を表すこともあります。また、「ボタンを押せば扉が開く」は、ほかの方法では開かないとまでは述べません。表は、はじめの四文で何が前に出るかを整理したものです。

四 意味の違いを確かめよう

問一 次の文が前に出している関係として、最も適切なものを選びなさい。

センサーに手を近づけると、画面が切り替わる。

ア	手を近づけるたび、装置の仕組みとして画面が変わる。
イ	画面を変える予定なら、先に手を近づけるよう勧める。
ウ	手を近づけ終えた後、係員へ知らせるよう求める。
エ	手を近づけても、画面は変わらないと予想している。

問二 次の文が示す内容として、最も適切なものを選びなさい。

有効な入場券があれば、実験室へ入れる。

ア	入場券がなくても、実験室へ入れると述べている。
イ	入場券を受け取った後、係員へ知らせるよう求める。
ウ	実験室へ入る予定なら、入場券を後で買うよう勧める。
エ	有効な入場券を、実験室へ入れる条件として置いている。

四 意味の違いを確かめよう（続き）

前後の順序を見る

「たら」と「なら」では、前の節に書かれた出来事と、後ろの節の行動の時間順が同じとは限りません。

問三 場面メモを読み、「なら」を使って一文にしてください。主語や語順は補ってかまいません。

予定	その前に必要なこと
自分で実験装置を操作する	保護眼鏡を着ける

問四 「押したら知らせる」と「操作するなら説明を読む」では、前後の行動の順序がどう異なるか、三十字以上五十字以内で説明してください。

五 文章の中で読もう

次の体験記録を読み、次のページの問いに答えなさい。装置の仕組み、利用条件、行動の順序、操作予定を分けて読みます。

- 一 市立科学館には、空気の力を調べる「風の輪」という体験装置がある。透明な筒の中へ軽い布の輪を入れ、下から風を送って浮かせる仕組みである。夏休みの体験日は、一組十分ずつ利用し、係員が操作方法と安全上の注意を説明することになっていた。
- 二 装置の前には、三つの案内が並んでいた。「青いボタンを押すと、送風機が回ります」「風量を上げれば、輪はより高く浮きます」「自分で操作するなら、先に係員の説明を受け、保護眼鏡を着けてください」。また、床の黄色い線のそばには、「ボタンを押したら、線の外まで下がってください」と書かれていた。
- 三 直哉は最初の案内だけを読み、青いボタンへ手を伸ばした。係員はボタンを押す前に直哉を止め、操作する予定かを尋ねた。直哉がうなずくと、係員は保護眼鏡を渡し、風量を急に上げないよう説明した。直哉は説明を聞いてからボタンを押し、黄色い線の外へ下がった。送風機が回り、布の輪は筒の中央まで上がった。
- 四 その日の記録用紙には、試作中の説明として「ボタンを押せば、輪はいつも同じ高さまで上がる」と書かれていた。しかし、弱い風では二十センチ、強い風では五十センチほど上がっていた。見学した子どもが違いを尋ねると、担当者は記録を確かめ、「風量を同じにすれば、ほぼ同じ高さまで上がります」と直した。閉館後、係員はボタン、眼鏡、黄色い線の案内を順に点検した。

読むときの手掛かり

条件の形だけでなく、案内がいつ読まれ、どの行動が先に必要で、装置の記録が何を示すかを確かめましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第二段落の「ボタンを押すと」が述べる内容として、最も適切なものを選びなさい。

ア	直哉がすでに押したため、送風機が故障したという記録。
イ	操作する予定の人は、先に眼鏡を受け取るという指示。
ウ	ボタンを押す動作に伴い、送風機が回るという仕組み。
エ	ボタンを押し終わったら、係員へ知らせるという依頼。

問二 第三段落で、係員が直哉をボタンの前で止めたのはなぜですか。本文から二つの不足を挙げなさい。

問三 「ボタンを押したら、線の外まで下がってください」が示す二つの行動を、時間順に書きなさい。

問四 第四段落で、試作中の説明を書き直した理由として、最も適切なものを選びなさい。

ア	ボタンを押しても、送風機が一度も回らなかったから。
イ	輪の高さはボタンだけでなく、風量によって変わったから。
ウ	保護眼鏡を着けると、輪が必ず低くなったから。
エ	黄色い線の外へ下がると、風量を選べなくなったから。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

装置の性質と、一度の指示を分け、場面に合う条件表現を選びます。

場面	前の内容	後ろの内容	前に出すこと
A	赤外線を感知する	画面が変わる	装置の仕組み
B	三問以上に正解する	次の実験へ進める	進むための条件

問一 A 場面 A を、「と」を使って一文にしてください。

問一 B 場面 B を、「ば」を使って一文にしてください。

六 場面を整理して、書き換えてみよう（続き）

一度の順序と予定

実験が終わった後の行動には「たら」、利用する予定を受けて先に必要な行動を示す場面には「なら」が使えます。

場面	出来事・予定	必要な行動
C	実験が終わる	保護眼鏡を返す
D	望遠鏡を利用する予定	先に時間を予約する

問二 A 場面 C を、「たら」を使って一文にしてください。

問二 B 場面 D を、「なら」を使って一文にしてください。

七 自分のことばで説明しよう

問一 はじめに比べた A・B で、「と」と「ば」が前に出す違いを、四十～六十字で説明しなさい。

問二 はじめに比べた C・D で、後ろの行動をする時点がどう異なるか、四十～六十字で説明しなさい。

説明するときの順序

一 前の内容を確認する 二 後ろの内容の種類を見る 三 出来事の時間順と話し手の前提を合わせる。

八 この回のまとめ

一	二	三
「と」は仕組み、「ば」は成立条件を前に出すことがある。	「たら」は、前の出来事が実現した後の行動を示せる。	「なら」は、予定を前提に、それより先の行動も示せる。
学習を終えて		
仕組みと成立条件を読み分けられた。		
一度の行動を時間順に並べられた。		
利用予定と、先に必要な行動を説明できた。		

第三回へ

次は、発言や考えの中へ入ります。誰が述べ、誰が行動し、どこまでがその人の言葉なのかを、引用の範囲から読みます。

解答・解説

答え合わせの仕方

接続の形の名前だけで終わらず、前後の節をどの関係で結んだかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係と出来事の順序が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え ボタンを押すことが、扉の開くことにつながる。

見るところ A・B の前後に共通する二つの出来事を取り出します。

問二

答え C

見るところ 「押したら」は、押し終えた後の時点を置いています。

問三

答え 説明を読むこと。

見るところ 操作する予定を前提に、その前に読むよう求めています。

二 四つの文をほどいてみよう

問一

答え 述べていない。A は、押すたびに扉が開く装置の仕組みを表しているから。

見るところ 一般的な仕組みと、一度起きた事実を分けます。

問二

答え ボタンを押す。その後で、知らせる。

見るところ 「押したら」が置く完了後の時点を確かめます。

問三

答え 聞き手が装置を操作する予定であること。

見るところ 「なら」の前は、話題や予定として置かれた前提です。

三 文法で整理しよう

問一

答え なら

見るところ 予定を前提にするため、後ろの指示は実際の操作より先に行えます。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え ア

見るところ 特定の一回ではなく、センサーと画面の一般的な連動を述べています。

問二

答え エ

見るところ 入場券を持つことが、入室できるための条件になっています。

問三

答え 自分で実験装置を操作するなら、先に保護眼鏡を着ける。

見るところ 操作の予定を前提にし、先に必要な行動を後ろへ置きます。

別解例 自分で装置を操作するなら、操作の前に保護眼鏡を着けてください。

★自己採点の観点 ①操作予定、②眼鏡、③眼鏡が先、の三点を確かめる。

問四

答え 「たら」の文では押した後知らせ、「なら」の文では操作する前に説明を読む。（三十七字）

見るところ 前の節の出来事と、後ろの行動の時間順を比べます。

別解例 前者はボタンを押し終えてから知らせるが、後者は操作の予定を受け、先に説明を読む。（四十字）

★自己採点の観点 ①押す→知らせる、②説明→操作、の二つの順序を含める。

五 文章の中で読もう

問一

答え ウ

見るところ 案内は装置の一般的な仕組みを述べ、直哉がすでに押した事実ではありません。

問二

答え 係員の説明をまだ受けておらず、保護眼鏡も着けていなかったから。

見るところ 第二段落の利用条件と、第三段落で係員がした二つのことを対応させます。

問三

答え 先にボタンを押し、その後で黄色い線の外へ下がる。

見るところ 「押したら」の前後を、行動の順序へ戻します。

問四

答え イ

見るところ 弱い風と強い風で輪の高さが異なるため、ボタンだけでは高さが決まりません。

六 場面を整理して、書き換えてみよう

問一 A

答え 赤外線を感知すると、画面が変わる。

見るところ 感知に伴って画面が変わる装置の仕組みを述べます。

別解例 装置が赤外線を感知すると、表示画面が切り替わる。

★自己採点の観点 繰り返し起きる二つの出来事が「と」でつながっているか。

問一 B

答え 三問以上に正解すれば、次の実験へ進める。

見るところ 三問以上の正解を、次へ進める条件として置きます。

別解例 五問のうち三問以上に正解すれば、次の実験へ進むことができる。

★自己採点の観点 ①三問以上、②次の実験、③成立条件、を確かめる。

問二 A

答え 実験が終わったら、保護眼鏡を返してください。

見るところ 実験の終了後に、眼鏡を返すよう求めます。

別解例 実験を終えたら、係員へ保護眼鏡を返す。

★自己採点の観点 実験終了→返却の順序になっているか。

問二 B

答え 望遠鏡を利用するなら、先に時間を予約してください。

見るところ 利用予定を前提にし、利用より前に必要な予約を示します。

別解例 望遠鏡を使うなら、利用する時間をあらかじめ予約する。

★自己採点の観点 ①利用予定、②時間予約、③予約が先、を確かめる。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 「と」は押すたびに開く仕組みを前に出し、「ば」は押すことを扉が開く条件として置く。(四十一字)

見るところ 同じ二つの出来事を、仕組みと成立条件のどちらから見るかを比べます。「ば」の文だけから、押すこと以外では開かないとは決められません。

別解例 はじめの A・B では、「と」が装置の仕組みを示し、「ば」が押すことを開く条件として置く。(四十三字)

★自己採点の観点 ①とは仕組み、②ばは成立条件、③A・B の文の範囲、を含める。

問二

答え 「たら」では押した後に知らせるが、「なら」では操作予定を前提にし、操作より前に説明を読む。(四十五字)

見るところ 前の節と後ろの行動が、どちらの順になるかを明示します。

別解例 前者は前の動作が終わった後の行動を示し、後者は予定を受けて、その実行前の行動も示せる。(四十三字)

★自己採点の観点 ①たらは前件後、②ならは予定を前提、③先行行動も可能、を含める。

どこまでが、だれの言葉？

——引用・考え・伝聞

第三冊 第三回

1	2	3	4	5
文の内外を比べる	言葉の持ち主を探す	引用を整理する	取材記録で確かめる	情報源が伝わる文へ

この回で大切にすること

伝えた人、聞いた人、考えた人と、その内容の中で行動する人を分けます。引用した言葉を、書き手自身が事実と認めた内容へ広げないようにしましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	標準 → やや発展 文脈と話し手の立場も読む

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

伝えた人、考えた人、出発する人を分けます。文の外側と、伝えたり考えたりした内容の内側を比べましょう。

A 美羽は、明日出発すると蓮に伝えた。

B 美羽は、蓮が明日出発すると伝えた。

C 蓮は、美羽が明日出発と思った。

問一 A・B で、伝えた人は誰ですか。

問二 B で、明日出発する人は誰ですか。

問三 A だけから、明日出発する人を一人に決められますか。理由も短く書きなさい。

二 三つの文をほどいてみよう

「伝えた」「思った」を中心に、文の外側の人と、内容の内側の人を表で整理します。

文	伝えた・考えた人	内容	内容の中の主語
A	美羽	明日出発する	省略
B	美羽	蓮が明日出発する	蓮
C	蓮	美羽が明日出発する	美羽

問一 Cで、考えた人と、考えの中で出発する人をそれぞれ答えなさい。

問二 AとBでは、「明日出発する」の主語の示し方がどう違いますか。

問三 Aの自然な読みを確かめるには、文のほかに何を見ればよいですか。二つ挙げなさい。

文の中に、別の内容が入る

引用や考えの内容は、主文の中へ入った小さな文のように働きます。外側の主語と、内側の主語を分けます。

三 文法で整理しよう

人の発言や考えを文の中へ取り込むことを、ここでは引用と呼びます。かぎ括弧を使う直接引用と、内容を文へ組み込む間接引用があります。

形	例	見るところ
直接引用	美羽は「私は明日出発する」と伝えた。	引用された言葉を、かぎ括弧で示す
間接引用	美羽は、自分が明日出発すると伝えた。	人称や時の表現を文に合わせる
考えの引用	蓮は、美羽が出発すると思った。	考えた人と、内容の主語を分ける
伝聞	八木によると、行進は中止だそうだ。	情報の出所と、聞いた内容を示す

ここでの「と」

「伝える」「言う」「思う」などにつながり、発言・考えの内容を示します。第二回で扱った条件の「と」とは働きが異なります。

問一 直接引用では、引用された言葉の範囲を何で示しますか。

問二 「記者によると、開会は十時だそうだ」で、情報の出所を示す部分を抜き出さない。

引用と事実認定を分ける

ある人がそう言ったことと、その内容が現実には正しいことは別です。書き手が誰の言葉として示しているかを確かめます。

四 意味の違いを確かめよう

問一 誰が休むのかを文の形で一つに示しているものを選びなさい。

ア	霧は、明日は休むと先生に伝えた。
イ	霧は、自分が明日は休むと先生に伝えた。
ウ	霧は、明日は休むと聞いた。
エ	霧によると、明日は休みだそうだ。

問二 「蓮は、美羽が出発すると聞いた」だけから決められないことを選びなさい。

ア	聞いた人が蓮であること
イ	出発する人が美羽であること
ウ	蓮が出発の話を聞いたこと
エ	蓮へその話を伝えた人が誰かということ

四 意味の違いを確かめよう（続き）

述語から、必要な人を確かめる

「伝える」なら伝え手と相手、「聞く」なら聞き手と情報源、「思う」なら考えた人を探します。

問三 次の文が述べている内容として最も適切なものを選びなさい。

広報係は、代表が予定を変更すると聞いた。

ア	広報係が、代表による予定変更の話を聞いた。
イ	広報係が予定を変え、代表へ知らせた。
ウ	代表が広報係から変更を命じられた。
エ	広報係と代表が一緒に予定を決めた。

問四 「広報係は、代表から、会場が変わると聞いた」で、情報の出所と、変わるものを答えなさい。

五 文章の中で読もう

次の取材記録を読み、次のページの問いに答えなさい。直接の発言、記者の要約、別の人から聞いた内容を分けます。

一 町の秋祭りを前に、地域新聞の記者である千尋は、公民館で準備の様子を取材した。実行委員長の佐伯は、会場図を広げて「私は明日の午前九時に会場を開けます。雨が降っても、展示は公民館で行います」と説明した。千尋は、佐伯が翌朝九時に開場し、雨の場合にも展示を行うと取材帳へまとめた。

二 舞台係の八木は、太鼓隊について「川辺の行進は中止になったと聞きました」と話した。しかし、誰から聞いたのかは述べなかった。千尋が太鼓隊の代表である結城へ確かめると、結城は「川辺の道は使いませんが、太鼓の演奏は公民館で続けます」と答えた。中止されたのは行進であり、演奏ではなかった。

三 千尋は記事の初稿に、「八木によると、川辺の行進は中止になったそうだ」と書き、聞いた内容と情報の出所を示した。そのうえで、結城に直接確認した内容を別の文にした。八木の発言を、そのまま祭り全体の中止という事実を広げなかったのである。

四 完成した記事には、佐伯の発言、八木が聞いた内容、結城の説明が分けて記された。引用された内容が文中にあっても、それを記者自身が事実として認めたとは限らない。誰が言ったか、誰から聞いたか、どこまでがその人の言葉かを確かめることで、出来事と伝え方を区別できる。

読むときの手がかり

誰が言ったか、誰から聞いたか、どの内容を記者が直接確かめたかを、段落ごとに整理しましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第一段落で、翌朝九時に会場を開ける人を答えなさい。

問二 八木の最初の発言について、本文からは分からないことを選びなさい。

ア	八木が行進中止の話を聞いたこと
イ	中止と聞いた対象が川辺の行進であること
ウ	八木がその話を誰から聞いたかということ
エ	八木が太鼓隊について話したこと

問三 取材で確かめられた事実として最も適切なものを選びなさい。

ア	秋祭りの全ての催しが中止された。
イ	雨の場合は展示も演奏も行わない。
ウ	八木が太鼓隊の最終方針を決めた。
エ	川辺の行進は中止し、演奏は公民館で続ける。

問四 千尋が八木の発言だけで祭り全体の中止と書かなかった理由を、三十五字以上五十五字以内で説明しなさい。

六 言葉の持ち主を示して、書き換えよう

表の人間関係を文へ入れ、主語・情報源・引用範囲を一つに定めます。語順や述語を変えてもかまいません。

場面	伝える・考える人	内容	相手・情報源
A	千尋	蓮が明日出発する	美羽へ伝える
B	佐伯	展示は公民館で行う	記者へ説明
C	八木	行進は中止になった	ボランティアから聞く

問一 A 場面 A を、「と」を使い、出発する人と伝える相手が一つに分かる文へ直しなさい。

問一 B 場面 B を、佐伯の直接の発言として、かぎ括弧を使う一文へ直しなさい。

問一 C 場面 C を、「によると」「そうだ」を使い、情報源が分かる文へ直しなさい。

七 自分のことばで説明しよう

問一 主文の主語と、引用内容の主語が同じとは限らない理由を、四十～六十字で説明しなさい。

問二 ある発言を引用することと、書き手がその内容を事実と認めることの違いを、四十～六十字で説明しなさい。

説明するときの順序

外側の述語を見る → 言葉の持ち主を確かめる → 内容の範囲と主語を確かめる、の順で整理します。

八 この回のまとめ

一	二	三
発言・考えの内容と、文の外側の出来事を分ける。	言葉の持ち主と、引用内容の主語を確かめる。	引用された内容を、書き手の事実認定と同じにしない。
学習を終えて		
伝え手・聞き手・考えた人を分けられた。		
引用の範囲と、その中の主語を確かめられた。		
情報源を補い、誰の言葉かが伝わる文へ直せた。		

次の回へ

次は、文末の形から、観察された事実、可能性、強い推測、予想、提案・義務を分けて読みます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解だけで終わらず、誰の言葉・判断として、どこまでが述べられているかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え 美羽

見るところ A・Bとも、主文の主語は美羽です。

問二

答え 蓮

見るところ 引用内容の中に「蓮が」と明示されています。

問三

答え 決められない。「明日出発する」の主語が省略され、Aだけでは一人に定まらないから。

見るところ 美羽が出発する読みは自然ですが、文脈によって別の人を補える形です。

二 三つの文をほどいてみよう

問一

答え 考えた人は蓮、出発する人は美羽。

見るところ 「思った」の主語と、考えの内容にある「美羽が」を分けます。

問二

答え Aは主語を省略し、Bは「蓮が」と主語を明示している。

見るところ 同じ「出発する」でも、内容の中の主語の示し方が違います。

問三

答え 前後の文と、誰が出発する予定なのかを示す場面・会話。

見るところ 直前の名詞だけでなく、予定や行動の流れを合わせます。

三 文法で整理しよう

問一

答え かぎ括弧

見るところ 引用された言葉の始まりと終わりを示します。

問二

答え 「記者によると」

見るところ 「によると」の前に、情報の出所が置かれています。

四 意味の違いを確かめよう

問一

答え イ

見るところ 「自分が」により、休む人を滞に定めています。

問二

答え エ

見るところ 聞いた内容は分かりますが、その情報を伝えた人は示されていません。

問三

答え ア

見るところ 聞いた人は広報係、引用内容の主語は代表です。

問四

答え 情報の出所は代表、変わるものは会場。

見るところ 「代表から」は聞いた相手、「会場が」は引用内容の主語です。

五 文章の中で読もう

問一

答え 佐伯

見るところ 直接引用の「私は」が、発言者である佐伯を指します。

問二

答え ウ

見るところ 八木は聞いた内容を述べていますが、情報源は示していません。

問三

答え エ

見るところ 結城へ直接確かめた結果、行進と演奏の扱いが分かれました。

問四

答え 八木の発言は情報源が不明で、中止の対象も川辺の行進に限られていたため、結城へ確かめたから。（四十五字）

見るところ 情報源の不足と、中止範囲の拡大を分けます。

別解例 誰から聞いた話か分からず、行進の中止を祭り全体へ広げられないため、代表へ直接確認したから。（四十五字）

☆**自己採点の観点** ①情報源が不明、②中止は行進、③直接確認、を含める。

六 言葉の持ち主を示して、書き換えよう

問一 A

答え 千尋は、蓮が明日出発すると美羽に伝えた。

見るところ 伝え手、引用内容の主語、伝える相手を全て入れます。

別解例 千尋は美羽に、明日は蓮が出発すると伝えた。

☆**自己採点の観点** ①千尋が伝える、②蓮が出発、③美羽へ、を確かめる。

問一 B

答え 佐伯は記者に、「展示は公民館で行います」と説明した。

見るところ かぎ括弧で発言の範囲を示します。

別解例 佐伯は「展示は公民館で行います」と記者へ説明した。

☆**自己採点の観点** ①発言者は佐伯、②内容の範囲、③相手は記者、を含める。

問一 C

答え ボランティアによると、行進は中止になったそうだ。

見るところ 情報源を「によると」で、聞いた内容を「そうだ」で示します。

別解例 行進は中止になったそうだと、八木はボランティアから聞いた。

☆**自己採点の観点** ①情報源、②聞いた内容、③伝聞であること、を示す。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 主文の主語は伝えたり考えたりする人を示し、引用内容には別の出来事と別の主語が入ることがあるから。（四十八字）

見るところ 外側の動作と、内側の内容を分けます。

別解例 伝えた人や考えた人が文全体の主語でも、引用された内容では別の人が行動する場合があるから。（四十四字）

☆**自己採点の観点** ①主文の主語、②引用内容、③別の主語、を含める。

問二

答え 引用は誰かが述べた内容を示すが、その内容を現実の事実として書き手が認めたことまでは示さない。（四十六字）

見るところ 発言があったことと、発言内容の真偽を分けます。

別解例 人の言葉を文へ入れても、その発言が正しいと書き手が判断したことにはならず、確認は別に必要である。（四十八字）

☆**自己採点の観点** ①引用された発言、②書き手の認定、③同じではない、を含める。

事実と判断を分けて読む

――文末表現と話し手の確かさ

第三冊 第四回

1	2	3	4	5
文末を比べる	話し手の立場を読む	文末表現を整理する	根拠を本文で確かめる	証拠に合う文末へ

この回で大切にすること

観察された内容と、話し手が可能性・強い推測・予想・評価として述べた内容を分けます。文末の強さだけでなく、判断を支える根拠へ戻りましょう。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	標準 → やや発展 文脈と話し手の立場も読む

名前

取り組んだ日

和会塾

一 まず比べてみよう

同じ破片について述べても、文末によって、断定、可能性、強い推測、予想、提案・義務が分かります。

- A この破片は古い器の一部だ。
- B この破片は古い器の一部かもしれない。
- C この破片は古い器の一部に違いない。
- D この破片は古い器の一部ではないはずだ。
- E この破片は保存すべきだ。

問一 A～D に共通して、何について判断していますか。

問二 古い器の一部である可能性を残し、断定していない文を選びなさい。

問三 破片の正体ではなく、今後の扱いについて判断している文を選びなさい。

二 文末が示す立場をほどいてみよう

どの内容を述べているかに加え、話し手がどのような立場で文を終えているかを整理します。

文	文末	この文での立場	注意すること
A	だ	内容を断定する	断定しても真実とは限らない
B	かもしれない	可能性を残す	可能性の大きさは一文で決まらない
C	に違いない	強い推測を示す	根拠の正しさは別に確かめる
D	はずだ	根拠に沿う予想を示す	予想どおりでない場合もある
E	べきだ	望ましい扱い・義務を示す	事実の確かさとは別の判断

問一 BとCでは、話し手が示す判断の強さにどのような違いがありますか。

問二 Eから、破片がすでに保存されたと分かりますか。理由も書きなさい。

問三 B・CとEを、同じ一本の「確かさ」の順に並べられますか。理由も短く書きなさい。

三 文法で整理しよう

文末には、内容を断定する形だけでなく、話し手の推量、予想、評価、義務などを添える表現があります。この回では、まとめて文末表現として扱います。

種類	形の例	読み取ること
断定	～だ／～である	話し手が内容を断定して述べる
可能性・推量	～かもしれない	別の可能性を残して述べる
強い推測	～に違いない	話し手が強くそう考えている
予想	～はずだ	根拠や予定に沿う見込みを置く
評価・義務	～べきだ／～必要がある	望ましい行動や必要性を示す

問一 A～Eのうち、破片の正体について推量・予想を示す三文を選びなさい。

問二 「保存すべきだ」は、事実、推量、評価・義務のどれを示しますか。

強い言い方と、正しさを分ける

「に違いない」と強く述べても、根拠が誤っていれば判断も誤ります。文末と、判断を支える証拠を別々に確かめます。

四 意味の違いを確かめよう

問一 観察された内容と、その内容からの推測を正しく分けたものを選びなさい。

ア	地面がぬれている。雨が降ったのかもしれない。
イ	地面がぬれているはずだ。雨が降った事実である。
ウ	地面がぬれるべきだ。雨が降ったに違いない。
エ	雨が降ったかもしれない。だから地面は必ずぬれている。

問二 証拠がまだ一つだけのとき、慎重な推測として最も適切な文を選びなさい。

ア	この足跡は鹿のものだ。
イ	この足跡は鹿のものに違いない。
ウ	この足跡は鹿のものではないはずだ。
エ	この足跡は鹿のものかもしれない。

四 意味の違いを確かめよう（続き）

文末と根拠を二段で読む

まず話し手の判断の示し方を読み、次に本文へ戻って、その判断を支える観察や資料があるかを確かめます。

問三 次の文から言えることとして最も適切なものを選びなさい。

この足跡は熊のものに違いない。

ア	足跡が熊のものだと科学的に確定した。
イ	話し手は熊の足跡だと強く推測している。
ウ	足跡を保存する義務がすでに決まった。
エ	話し手は熊以外の可能性も同じ強さで考えている。

問四 「安全のため入口を閉めるべきだ」から、入口が実際に閉まったと決められますか。理由も書きなさい。

五 文章の中で読もう

次の調査記録を読み、次のページの問いに答えなさい。観察された内容、専門家の推測、保存方針を分けます。

- 一 地域資料館へ、畑の脇で見つかった土器らしい破片が持ち込まれた。学芸員の早川は、長さ四・二センチ、赤褐色で、一方の縁が緩やかに曲がり、表面に三本の平行線があると記録した。これらは、測ったり目で確かめたりした内容である。何の器かは、この段階では記録していない。
- 二 収蔵庫にある古い祭器と比べると、縁の曲がり方と線の並びが似ていた。ただし、破片の土の成分はまだ調べておらず、見つかった場所も正式な発掘地点ではない。早川は「古い祭器の一部かもしれません」と述べ、可能性は示したが、器の種類を断定しなかった。
- 三 写真を見た研究員の大庭は、「この模様なら、祭器の一部に違いない」と強く述べた。一方、別の収蔵品には似た模様を持つ日用品もあった。大庭の言い方が強くても、それだけで破片の正体が確定したことにはならない。早川は、成分と出土地点の調査が必要だと記録へ加えた。
- 四 保存会では、「貴重な品かもしれないので、すぐ常設展示すべきだ」という意見が出た。しかし、展示は破片の正体についての事実ではなく、今後どう扱うかという判断である。資料館は、まず温度と湿度を一定にして保管し、用途を「調査中」として公開することにした。観察、推測、強い主張、保存方針を分けたのである。

読むときの手がかり

数値・色・形など確かめたことと、それを根拠に人が下した判断を、同じ欄へ入れないようにしましょう。

文章の中で読もう 問い

問一 第一段落で、早川が観察・測定した内容を二つ答えなさい。

問二 早川が「祭器の一部かもしれません」と述べた理由として最も適切なものを選びなさい。

ア	祭器だと成分検査ですでに確定したから。
イ	祭器でないことを出土地点から確認したから。
ウ	似た特徴はあるが、成分や出土地点が未確認だから。
エ	保存会が常設展示を決定していたから。

問三 破片の正体ではなく、今後の扱いについての判断を述べた文を選びなさい。

ア	破片の長さは四・二センチである。
イ	表面には三本の平行線が見られる。
ウ	破片は祭器の一部かもしれない。
エ	貴重な品なら、すぐ常設展示すべきだ。

問四 大庭が「祭器の一部に違いない」と述べても、正体が確定しない理由を、三十五字以上五十五字以内で説明しなさい。

六 根拠に合う文末へ書き換えよう

表の根拠と目的に合わせ、観察の報告、慎重な推測、保存方針をそれぞれ一文へします。

場面	分かっていること	書く目的
A	長さ四・二センチ／赤褐色／三本の線	観察した内容を報告する
B	祭器と模様が似る／成分は未確認	可能性を慎重に示す
C	湿度変化で傷むおそれ／保存会の判断	今後必要な行動を提案する

問一 A 場面 A を、観察した内容だけを述べる一文または二文にしてください。

問一 B 場面 B を、「かもしれない」を使う一文にしてください。

問一 C 場面 C を、「べきだ」または「必要がある」を使う一文にしてください。

七 自分のことばで説明しよう

問一 断定の文と、観察された事実が同じとは限らない理由を、四十～六十字で説明しなさい。

問二 「かもしれない」と「べきだ」の違いを、判断する対象に触れて四十～六十字で説明しなさい。

説明するときの順序

何について述べるか → 文末が示す立場 → その立場を支える根拠、の順で整理します。

八 この回のまとめ

一	二	三
観察された内容と、人が下した判断を分ける。	文末から、可能性・強い推測・予想を読む。	評価・義務は、事実の確かさとは別の判断である。
学習を終えて		
文末が示す話し手の立場を分けられた。		
強い表現と、根拠の確かさを区別できた。		
証拠の量と目的に合う文末へ直せた。		

全体総合問題へ

最後は、古い水路の共同調査記録を読み、文の骨組み、範囲、条件、引用、事実と判断を一つにつなぎます。

解答・解説

答え合わせの仕方

正解だけで終わらず、誰の言葉・判断として、どこまでが述べられているかを確認しましょう。記述や書き換えは、必要な関係が伝われば、模範解答と異なる言い方でも成り立ちます。

一 まず比べてみよう

問一

答え この破片が古い器の一部かどうか。

見るところ A～D は正体について、異なる立場で述べています。

問二

答え B

見るところ 「かもしれない」は別の可能性を残します。

問三

答え E

見るところ 正体ではなく、保存という今後の行動を判断しています。

二 文末が示す立場をほどいてみよう

問一

答え B は一つの可能性として示し、C は古い器の一部だと強く推測している。

見るところ 文末が示す話し手の確信の表し方を比べます。

問二

答え 分からない。E は保存することが望ましいと述べ、実際に保存したとは述べていない。

見るところ 必要な行動と、完了した事実を分けます。

問三

答え 並べられない。B・C は正体の確かさ、E は保存という行動の望ましさを判断するから。

見るところ 判断の強さだけでなく、何を判断しているかを確認めます。

三 文法で整理しよう

問一

答え B・C・D

見るところ 可能性、強い推測、根拠に沿う予想を示します。

問二

答え 評価・義務

見るところ 何が望ましいか、何をする必要があるかを述べます。

四 意味の違いを確認めよう

問一

答え ア

見るところ 地面がぬれていることを観察し、雨は可能性として推測しています。

問二

答え エ

見るところ 証拠が少ない段階なので、ほかの可能性を残します。

問三

答え イ

見るところ 「に違いない」は話し手の強い推測であり、科学的な確定そのものではありません。

問四

答え 決められない。「べきだ」は閉める必要性を述べるだけで、実際に閉めたとは述べていない。

見るところ 提案・義務と、実行済みの事実を分けます。

五 文章の中で読もう

問一

答え 例：長さが四・二センチであること。赤褐色であること。

見るところ ほかに、縁が曲がること、三本の平行線があることも成り立ちます。

問二

答え ウ

見るところ 似た特徴はありますが、確認していない根拠も残っています。

問三

答え エ

見るところ 常設展示は、今後の扱いについての評価・提案です。

問四

答え 「に違いない」は大庭の強い推測であり、成分や出土地点が未確認で、似た日用品も残るから。（四十三字）

見るところ 言い方の強さと、未確認の根拠を分けます。

別解例 大庭は強く述べたが、模様の似た日用品もあり、成分と出土地点の調査が終わっていないから。（四十三字）

☆**自己採点の観点** ①強い推測、②未確認の根拠、③別の可能性、を含める。

六 根拠に合う文末へ書き換えよう

問一 A

答え 破片は長さ四・二センチで、赤褐色である。表面には三本の線がある。

見るところ 観察・測定した内容だけを断定して記します。

別解例 赤褐色の破片は長さ四・二センチで、表面に三本の平行線が見られる。

☆**自己採点の観点** 表にない正体や用途を加えていないか。

問一 B

答え 模様が似ているため、この破片は祭器の一部かもしれない。

見るところ 似た模様の根拠にしつつ、成分未確認なので可能性を残します。

別解例 この破片は祭器と模様が似るが、その一部かもしれない。

☆**自己採点の観点** ①似た模様、②可能性、③断定しない、を含める。

問一 C

答え 湿度の変化で傷むおそれがあるため、破片を一定の環境で保存すべきだ。

見るところ 傷むおそれを根拠に、必要な行動を示します。

別解例 破片の劣化を防ぐには、温度と湿度を一定にして保管する必要がある。

☆**自己採点の観点** ①劣化のおそれ、②保存の必要、③方針であること、を示す。

七 自分のことばで説明しよう

問一

答え 断定の文は話し手が内容を言い切る形だが、その根拠が正しいか、実際に確認されたかは別だから。（四十五字）

見るところ 言い切る形と、現実の正しさを分けます。

別解例 「だ」と述べても話し手の判断を示すだけで、観察や資料によって真実だと確かめられたとは限らない。（四十七字）

☆**自己採点の観点** ①断定の形、②根拠・確認、③別である、を含める。

問二

答え 「かもしれない」は出来事や正体の可能性を示し、「べきだ」は今後の行動の望ましさや必要性を示す。（四十七字）

見るところ 判断の強さだけでなく、対象の違いを書きます。

別解例 前者は内容が事実である可能性を残す表現で、後者はどのように行動するのがよいかを判断する表現である。（四十九字）

☆**自己採点の観点** ①可能性、②行動の望ましさ・必要性、③対象の違い、を含める。

古い水路の記録を、根拠から読み直す

――全十二回の読み方を一つにつなぐ

第三冊 全体総合問題

1	2	3	4	5
資料を見渡す	人物と範囲を追う	条件と引用を分ける	事実と判断を確かめる	報告を明確に直す

この回で大切にすること

町の古い水路を調べる共同記録で、人物の役割、意味の範囲、条件、引用、観察事実と話し手の判断を続けて読みます。最後は、曖昧な報告を根拠に合わせて書き直します。

学習のめやす	問題数と形式	難度
問題 四十～五十五分 答え合わせ 十五～二十分	全二十一問 短答・選択・記述・書き換え	標準 → やや発展 文脈と話し手の立場も読む

名前

取り組んだ日

和会塾

一 資料と記録を読む

役割表と共同調査の記録を読みます。文の形だけでなく、地点、時間、発言者、根拠を照合してください。

人	役割	主に確かめるもの
守屋	土木技師・班の安全管理	日程、石垣の状態、保護方法
新田	郷土史家	古地図、水路の年代
柚葉	現地調査	刻印や石の形
航	記録係	観察、発言、決定の区別

- 一 町の西を流れる古い水路について、共同調査が行われた。調査班は、土木技師の守屋、郷土史家の新田、中学生の柚葉、記録係の航の四人である。守屋は安全と日程を決め、新田は古地図を読み、柚葉は現地の印を探し、航は観察と発言を分けて記録する役を担った。
- 二 前日の打合せで、守屋は「雨が降ったら現地調査は延期します。その場合でも、資料館で古写真を調べます」と説明した。当日は雨が降らず、四人は午前九時に現地へ入った。西側の三地点を調べると、A 地点と B 地点は土で埋まり、C 地点だけは細く水が流れていた。北側では水深を測り、三十八センチと記録した。
- 三 C 地点の石垣のそばで、柚葉は三本の刻印がある石を見つけた。新田は古地図の水路記号と刻印を比べ、「この水路は江戸時代から使われたものに違いない」と話した。ただし、刻印の一部は欠け、石がいつ置かれたかを示す年号もなかった。強い言い方ではあるが、年代が確定したわけではない。

一 資料と記録を読む（続き）

四 新田は、柚葉が刻印のある石を見つけたと航に伝えた。航は、石を見つけた人を新田と取り違えないよう、「柚葉が見つけた」と主語を残した。また、新田の発言はかぎ括弧に入れ、調査班全体が年代を事実として認定した文とは分けた。

五 守屋は、C地点の石垣が崩れるおそれを確かめ、「水路の形を残すため、刻印のある石を先に保護すべきです」と提案した。これは石の年代についての事実ではなく、今後の行動についての判断である。調査班は、石を動かす前に土地の管理者と資料館へ相談することにした。

六 航は最終記録に、埋まった地点と水が流れる地点、雨天時の計画と当日の天候、柚葉の発見、新田の推測、守屋の提案を分けて書いた。一つの短い文へ詰め込むと、誰の言葉か、何が実際に起きたか、どの範囲が埋まっていたかが曖昧になるためである。

共同記録を読む順序

誰が何をしたか → どの範囲・時点か → 誰の言葉か → 事実か推測・提案か、の順で確かめます。

二 人物と範囲を確かめる

問一 刻印のある石を見つけた人を答えなさい。

問二 柚葉の発見を航へ伝えた人を答えなさい。

問三 西側三地点の状態を、一つに伝える文として最も適切なものを選びなさい。

ア	西側三地点のうち A・B は埋まり、C だけ水が流れていた。
イ	西側の水路は三地点とも完全に埋まっていた。
ウ	西側の水路は一地点も埋まっていなかった。
エ	西側では C 地点も土で埋まり、水は流れていなかった。

問四 「新田は、柚葉が石を見つけたと航に伝えた」で、見つけた人と伝えた人をそれぞれ答えなさい。

三 条件と時間を確かめる

問一 前日の計画では、雨が降った場合、現地調査をどうすることになっていましたか。

問二 当日、現地調査を行えた直接の理由を、本文に即して答えなさい。

問三 「雨が降ったら現地調査を延期する」から、その日に雨が実際に降ったと決められますか。理由も書きなさい。

問四 雨の場合にも古写真の調査は行うという計画を、「ても」を使う一文へ直しなさい。

四 どこまでが、誰の言葉か

問一 水路が江戸時代から使われたものだと強く推測した人を答えなさい。

問二 「新田は、柚葉が刻印のある石を見つけたと航に伝えた」で、引用内容の主語を抜き出さない。

問三 新田の発言だけから決められないこととして、最も適切なものを選びなさい。

ア	新田が水路の年代について話したこと
イ	水路が江戸時代から使われたと確定したこと
ウ	新田が古地図と刻印を比べたこと
エ	発言を記録係の航が区別して書いたこと

問四 新田の発言を、発言の範囲が分かる直接引用の一文へ書きなさい。

五 事実と判断を分ける

問一 現地で観察・測定された事実を、本文から二つ答えなさい。

問二 次の文のうち、観察事実ではなく強い推測を示すものを選びなさい。

ア	北側の水深は三十八センチだった。
イ	石の表面には三本の刻印があった。
ウ	この水路は江戸時代から使われたものに違いない。
エ	西側のC地点では細く水が流れていた。

問三 守屋の「石を先に保護すべきです」は何についての判断ですか。また、保護はすでに終わっていますか。

六 曖昧な報告を書き換える

次の元の報告は、否定の範囲、発言者と記録者、推測と事実、雨天時の計画と当日の出来事が混ざっています。場面メモに従い、三～四文へ直します。

元の報告 西側の水路は全部埋まっていませんでした。新田さんは江戸時代のものに違いないと話し、保存すべきだと記録しました。雨が降っても調査を続けたそうです。

項目	場面メモ
西側	A・Bは埋没／Cは水が流れる
年代	新田の強い推測／年代は未確定
保護	守屋が提案／航が記録／まだ相談前
天候	当日は降雨なし／雨なら現地調査は延期

問一 場面メモの情報が一つに伝わるよう、元の報告を三～四文へ書き換えなさい。

問二 元の報告では何が曖昧・不正確でしたか。三点に触れ、四十五～六十五字で説明しなさい。

六 曖昧な報告を書き換える（続き）

書き換えた文をもう一度確かめる

人、地点、天候、言葉の持ち主、文末の立場が、場面メモと一致しているかを見直します。

問三 新田の推測を、調査班全体の確定事実と誤解されない一文へ直しなさい。

問四 「雨が降っても調査を続けたそうです」が当日の記録として不正確な理由を説明しなさい。

七 全十二回の読み方を説明しよう

問一 一文から文章全体へ読む順序を、「述語」「範囲」「文脈」の三語を使い、五十～七十字で説明しなさい。

問二 共同記録で、観察事実・他人の言葉・書き手の判断を分ける必要を、五十～七十字で説明しなさい。

シリーズの到達

文の形が示すこと、本文へ戻って確かめること、自分が根拠を添えて判断することを、同じ一文の中で混ぜずに扱います。

全体総合問題 解答・解説

答え合わせの仕方

用語名を並べるのではなく、人物・地点・時間・発言・根拠のどこを見たかを確認めます。書き換えは、必要な情報が一つに伝わり、観察事実と推測・提案が混ざっていないかで自己採点しましょう。

二 人物と範囲を確かめる

問一

答え 柚葉

見るところ 第三段落の発見と、第四段落の主語を照合します。

問二

答え 新田

見るところ 第四段落で、新田が航へ伝えています。

問三

答え ア

見るところ 三地点のうち、埋没二地点と流水一地点を具体的に示します。

問四

答え 見つけた人は柚葉、伝えた人は新田。

見るところ 引用内容の主語と、主文の主語を分けます。

三 条件と時間を確かめる

問一

答え 現地調査を延期する。

見るところ 雨を、延期の条件として置いた計画です。

問二

答え 当日は雨が降らなかったから。

見るところ 計画の条件と、実際の天候を分けます。

問三

答え 決められない。「たら」は雨の場合の計画を示し、雨が実現したとは述べていないから。

見るところ 条件として置いた内容と、起きた事実を分けます。

問四

答え 雨が降っても、資料館で古写真を調べる。

見るところ 雨の場合にも、後ろの調査は行う方針を示します。

別解例 雨天でも、資料館で古写真の調査は行う。

☆**自己採点の観点** ①雨の条件、②古写真の調査を継続、を含める。

四 どこまでが、誰の言葉か

問一

答え 新田

見るところ 第三段落のかぎ括弧に入った発言の持ち主です。

問二

答え 「柚葉が」

見るところ 引用内容の中で、石を見つけた動作の主語です。

問三

答え イ

見るところ 発言の強さだけでは、水路の年代が確定したことになりません。

問四

答え 新田は、「この水路は江戸時代から使われたものに違いない」と話した。

見るところ 発言者と発言範囲を明示します。

別解例 新田は古地図と刻印を比べ、「この水路は江戸時代から使われたものに違いない」と述べた。

☆自己採点の観点 ①新田の発言、②発言の範囲、③強い推測、を保つ。

五 事実と判断を分ける

問一

答え 例：北側の水深が三十八センチだったこと。石に三本の刻印があったこと。

見るところ ほかに、西側 A・B の埋没、C 地点の流水も成り立ちます。

問二

答え ウ

見るところ 「に違いない」は新田の強い推測です。

問三

答え 石を今後どう扱うかという保護方針の判断。保護はまだ終わっていない。

見るところ 「べきだ」という提案と、実行済みの事実を分けます。

六 曖昧な報告を書き換える

問一

答え 西側の A・B 地点は埋まっていたが、C 地点には水が流れていました。新田は、水路が江戸時代から使われたものに違いないと話しましたが、年代は未確定です。守屋は石の保護を提案し、航が記録しました。当日は雨が降らず、現地調査を行いました。

見るところ 地点の範囲、新田の推測、守屋の提案と航の記録、当日の天候を分けます。

別解例 西側三地点のうち、A・B は埋まり、C では水が流れていました。新田は江戸時代の水路だと強く推測しましたが、確定はしていません。守屋の保護案を航が記録しました。当日は雨が降らなかったため、現地を調査しました。

ほかの答え方・考え方 三文にまとめる場合も、推測の持ち主と当日の天候を省かないようにします。

☆**自己採点の観点** ①A・B と C、②新田の未確定の推測、③守屋→航、④降雨なし、を含める。

問二

答え 埋没地点の範囲、年代の推測と事実の区別、提案者と記録者、雨天計画と当日の天候が混ざっていた。（四十六字）

見るところ 元の三文の問題を、場面メモの四項目と対応させます。

別解例 どの地点が埋まったか、新田の推測が未確定なこと、守屋と航の役割、実際には雨が降らなかったことが不明だった。（五十三字）

☆**自己採点の観点** 三点以上を具体的に挙げ、曖昧さの種類を示す。

問三

答え 新田は、この水路が江戸時代から使われたものに違いないと話したが、年代は未確定である。

見るところ 推測の持ち主と、調査班が確認していない範囲を示します。

別解例 「江戸時代から使われた水路に違いない」と新田は述べたが、年代を示す証拠はまだそろっていない。

☆**自己採点の観点** ①新田の発言、②強い推測、③未確定、を含める。

問四

答え 当日は雨が降っておらず、雨なら現地調査を延期する計画だったため。

見るところ 雨の条件が実現したように書くと、本文の事実と反対になります。

七 全十二回の読み方を説明しよう

問一

答え まず述語とつながる言葉から人物と出来事を分け、否定や条件の範囲を確かめ、一文で決まらない内容を文脈へ戻って選ぶ。（五十六字）

見るところ 一文の骨組み→範囲・条件→文章の文脈、という進み方を示します。

別解例 述語を中心に主語や助詞の関係を整理し、意味が及ぶ範囲を見たうえで、発言者や時間など不足する根拠を文脈から確かめる。（五十七字）

☆**自己採点の観点** ①述語、②範囲、③文脈、④読む順序、を含める。

問二

答え 観察事実と他人の言葉を混ぜると未確認の内容まで事実に見え、書き手の判断を混ぜると根拠と提案の境が分からなくなるから。（五十八字）

見るところ 三種類を混ぜたとき、読み手に生じる誤解を示します。

別解例 実際に確かめたこと、引用した発言、書き手が下した評価を分ければ、誰がどの根拠でどこまで述べたかを読み手が確かめられる。（五十九字）

☆**自己採点の観点** ①観察事実、②他人の言葉、③書き手の判断、④分ける理由、を含める。

『文法で意味を読む』

第三冊 文と文、話し手の判断を読む

書誌

教材名	『文法で意味を読む』第三冊 文と文、話し手の判断を読む
版	第三冊完成版
発行日	2026 年 8 月 13 日
制作・発行	和会塾（なごらいじゅく）
ウェブサイト	https://kokugo-senka.top/

利用について

本教材は、個人の学習、家庭学習、和会塾の指導で利用するために制作したものです。教材の全部または一部を、許可なく転載・再配布・販売することはお控えください。

改訂について

実際の学習や指導で得られた気づきをもとに、設問・解説・紙面を改訂することがあります。内容についての連絡は、和会塾ウェブサイトのお問い合わせフォームからお寄せください。